

[TOP page](#)[資料室](#)[イベント情報](#)[講師を探す](#)[Worker's 広場](#)[関連リンク](#)

## 資料室


[HOME](#) | [資料室](#) | [一般教養](#) | [生涯学習](#) | [歴史雑学](#) 2. 銭形平次はなぜ十手を持っているのか?
[労働組合](#)[労働者福祉・共済](#)[一般教養](#)[社会保障](#)[労使トラブル法律相談Q&A](#)[労働関係法](#)[経営全般](#)[人間関係とコミュニケーション](#)[ライフプラン](#)[男女共同参画](#)[公務員関係法](#)[日朝の歴史](#)[7つの習慣](#)[中東の歴史](#)[ボランティア活動](#)[環境活動](#)[社会貢献活動](#)[自己啓発](#)[生涯学習](#)[外交・防衛問題](#)[資本論](#)[教育カリキュラム](#)[日本国憲法](#)

### 歴史雑学 2. 銭形平次はなぜ十手を持っているのか?

勿論、銭形平次は野村胡堂の小説中の人物で実在しません。しかし、江戸時代に「目明し」と呼ばれる人間はいました。目明しは「御用聞き」「岡っ引き」などとも呼ばれ、町奉行の配下の同心がそれぞれ個人的に使っていたものです。ですから、身分は役人ではなく、町内の用心棒といったところで、本当は小説の平次のようにかっこいいものではなかったようです。十手は捕吏のシンボルですが、目明しには、それを持つ権利はありません。ただ、同心と一緒に行動する時のみ、十手を同心から手渡されたのです。銭形平次のセリフで、「お上から預かった、この十手にかけても……」というのは、実際はナンセンスな話なのです。

目明しの日常の生活は、町内の相談役、万事請負役、苦情係といったところで、そうそう犯罪ばかり追いまわしていたわけではありません。おまけに役人ではありませんから、奉行所から給金が出るわけでもないのです。では、目明しは何で食べていたのでしょうか。町内のトラブルをおさめるかわりに、商家や賭博場などから、加金を得ていたのでしょう。小説の中のような正義感あふれる目明しもいたのですが、実際の目明しは「毒をもって毒を制す」といった感じが強く、賭博打ちの親分と目明しの親分を兼ねていた者も随分といました。

江戸の町は、百万近い人口がいたにもかかわらず、同心は200人前後と圧倒的に少なく、町の顔役に十手を預けるような形をとって治安を守っていたのでしょう。目明しは、臨時にしか十手を持たなくてもおニラミがきいたようです。

資料に関する解説やサイト内ブックマーク、簡単なクイズもできる無料会員登録のお申し込みはこちらになります。

**Worker's Library 会員登録****お申し込みはこちらです。**[>>一覧へ戻る](#)

傾聴

語り部スキル

🔍 キーワード検索はこちら

📄 サイトマップ   🔍 このサイトについて   🛡️ 個人情報保護の取組みについて

🏠 ページTOPへ

TOP page

資料室

イベント情報

講師を探す

Worker's広場

関連リンク

**Worker's Library** 静岡で働く人のための資料閲覧サイト  
JAPANESE TRADE UNION COFEDERATION DB SITE **【ワーカーズ・ライブラリー】**

Copyright© WORKER'S LIBRARY All rights reserved.